

なぜ社会主義の中国に 資本市場が必要なのか

野村総合研究所・経済産業研究所
上席研究員
関志雄

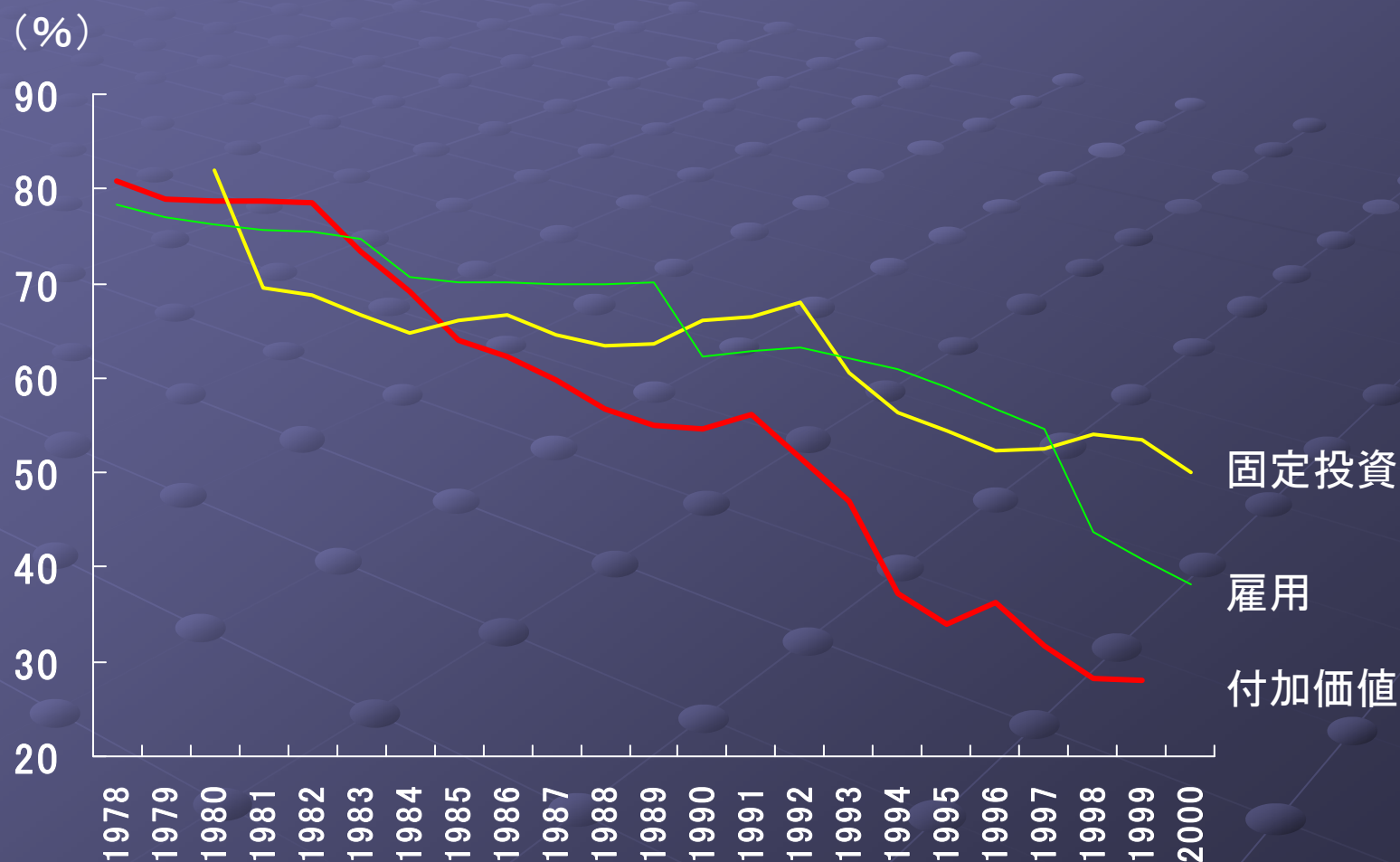
金融・企業改革と資本市場

- 銀行部門の脆弱性
- 国有企業民営化の受け皿
- 民営企業の資金調達の間

銀行部門の脆弱性

- 高い不良債権比率
- 資本注入、不良債権の資産管理会社(AMC)への移転
- 新規の不良債権の発生が止まらず、不良債権比率が高止まり
- 最大の融資先である国有企業の不振

低下する工業部門における 国有企業の比重



国有企業の問題点

- 過剰労働力
- 退職金など重い社会負担
- 高い債務比率(80年代以来、国から企業への資金投入を銀行の貸し付けに改めたことも一因)
- コーポレート・ガバナンスの欠如
 - インサイダー・コントロール
 - 国有資産の流失
 - ソフトな予算制約(Too Big to Fail)
- 経営赤字、債務の不良債権化

国有経済の戦略的改組 (97年9月共産党第15回党大会)

- 国有企業は次の分野に限定
 - 国家の安全に係る産業(軍事工業、造幣工業、航空工業)
 - 自然独占(電信、鉄道、電力)
 - 公共財(インフラ関連)
 - 基幹産業とハイテク産業(石油採掘、鉄鋼、自動車、電子の先端部門)
- 西側における国有企業の位置付けとほとんど変わらない
- 株放出による民営化
- 国有銀行も民営化の対象へ

国民待遇を求める民営企業

- 所有権の保護が不足
- 業種別の参入規制
- 銀行からの融資が困難
 - 民間銀行の育成
 - ベンチャーの資金調達の間としての株式市場

なぜ社会主義の中国に 資本市場が必要なのか

- 中国が社会主義の看板を掲げながら、目指している目標は西側と何ら変わらない資本主義市場経済である
- 今はその移行過程にある
- 中国経済の躍進が、社会主義を堅持しているからではなく、放棄したからである